

まきびと

2023 年 社 会 福 祉 法 人

夏季号 牧 人 会

961-8061 福島県西白河郡西郷村
小田倉字上上野原 158 番地 1

T E L 0248-25-2046
F A X 0248-25-3776
振 替 口 座 02160 - 6-244

感染症拡大禍環境に対応した支援活動提供を福祉現場で誠実に実践



地域社会に仕える働き場 児童発達支援センター「はなわ」事業開始へ

元町立鳩保育園園舎を大規模改修。



工事が終了し、2023 年 4 月から事業開始。

児童発達支援センター「はなわ」を開設し、地域社会に仕える 当会の 2023 年度事業活動をご支援ください。理事長 山下 勝弘

当会の 2023 年度事業活動は、現在の新型コロナをはじめ 多様な感染症禍環境下の状況にあっても、昨年度と同様に、主に知的障がいのある幼児から高齢者までを対象に、福島県・山形県・宮城県 3 県内の 11 市町村で、15 種別 65 事業の福祉支援活動を確実に実施し、福祉サービスを誠実に提供しています。現況は以下の通りです。

■ 2023 年度の現状

福祉施設サービス領域 児童領域
乳幼児を対象にした児童発達支援センター及び発達支援事業所 8 施設、障

がい児入所施設 2 施設、その他短期入所事業、日中一時支援事業の運営。直接利用児童数 267 名。成人領域 障がい者支援施設 3 施設、就労支援・生活介護施設 4 施設、グループホーム 7 ヶ所を運営。直接利用者数 410 名。

地域福祉サービス領域 地域相談支援事業を福島県内 4 地域、山形県内 2 地域、その他保育所等訪問事業を 2 地域で実施。また福島県内では、あだち相談センター及びはなわ相談センターが基幹相談センターとして活動し、地域福祉に貢献しています。

■ 2023 年度事業計画内容

1、多様な感染症禍環境下の利用者支援の強化・充実

今年度も、感染予防と共に、利用者の新しい生活様式と内容を育成する支援提供を強化します。

2、運営福祉施設建物・設備の改修工事の実施。

運営福祉施設建物・設備の改修工事を実施し、利用者生活環境・設備の整備充実を推進します。

3、新規支援サービス提供の準備と、人材育成支援活動の具体化。

関係団体、キリスト教会と連携して、地域社会の要望に応える福祉支援活動を準備します。また、福祉活動に従事する人材育成支援活動を具体的に 推進します。

■感染症禍環境下の新しい豊かな生活支援充実へ■

福祉現場の支援の現状

感染予防対策を最優先した生活支援と生産活動 成人通所施設の3年間

当会が運営する就労支援施設「あだち共労育成園」「寒河江共労育成園」では、新型コロナウイルス感染者は発生しました。その環境下でも、地域社会と連携した利用者の適性と能力に応じた生産活動を実施しました。



現在ではこれまでの木工製品の他に、利用者のアイデアと適性と能力に応じた、多様な縫製製品が製作されています。(写真 左上)

また、生活介護施設「須賀川共労育成園」「泉崎障がい者支援センター」でも、日常生活支援活動に作業科目を用意し、能力と適性に応じた活動を提供し、感染予防対策最優先の生活環境下で生活形成支援をしました。

感染のクラスター化を防止 児童と職員が一体化した生活と経験

当会が運営する児童入所施設「白河めぐみ学園」「白河こひつじ学園」も新型コロナウイルス感染が発生しましたが、職員と児童が協力してクラスターへの拡大は防止しました。学園は感染予防対策を最優先にした環境下で、児童は職員との生活から、生活能力の発達成長を体験し、確立する期間を過ごしてきました。



奉仕活動に参加した山形育成園のみなさん



限られた機会を生かして社会参加 成人入所施設は開かれた生活模索へ

当会の運営する成人入所施設「山形育成園」「あだたら育成園」「はなわ育成園」の中で「山形育成園」「あだたら育成園」は新型コロナウイルス感染クラスターが発生しました。

満3年間に近い期間、施設内に限定された生活を余儀なくされた利用者は、新しい生活様式で日常を過ごしてきました。それでも限られた機会を生かして社会参加活動を行ない、生活の豊かさを育ててきました。

山形育成園では、利用者が蔵王山頂周辺の清掃ボランティア活動に参加しました。それぞれが様々な生活の豊かさを育てる努力を模索した日々でした。

深刻な影響を受けた療育支援現場 新型コロナ等で利用制限が常態化

当会は幼児の療育支援活動を積極的に推進して、現在児童発達支援センター「山形ひかり学園」をはじめ8施設を運営しています。新型コロナ等が感染拡大期間、最も影響を受けたのは、これらの幼児療育施設です。

感染幼児や濃厚接触者が発生する頻度が高くそのたびごとに療育サービス提供を中止する状況が常態化していました。

この状態は新型コロナ以外の感染症の発生もあって現在も継続しています。

2022年度に牧人会後援会へ納入された会員の会費総額は、4,586,869円で、これは個人会員と団体会員をあわせて481会員のみなさまが協力してくださいました結果です。この納入された会費から、3,500,000円を2022年度の助成金として、社会福祉法人牧人会へ捧げました。

2022年度は新型コロナ禍環境に対応した社会福祉法人牧人会の各種設備更新、社会福祉充実計画に関連した「児童発達支援センター」整備事業を中心に支援しました。2023年度も、引き続きみなさまのご理解、ご加勢と共に、後援会活動へのご参加とご支援を、心からお願いいたします。(協賛広告)

牧人会後援会にご参加ください

感謝と報告

後援会 会長 定家 修身

牧人会後援会は1971(昭和46)年に社会福祉法人牧人会設立とともに、正式に活動を開始し、社会福祉法人牧人会の強力な協力支援団体として、現在にいたっています。

その主要な支援活動内容は、社会福祉法人牧会に連帯し、理解し、協力するとともに、これを財政的に支援することです。

当会の2022年度財務報告

みなさまのご支援に感謝いたします

当会の2022年度(令和4年度)の財務状況を報告いたします。

社会福祉法人牧人会 財務報告
2023年3月31日現在

	単位:千円
資産の部	3,329,812
流動資産	741,858
固定資産	2,587,954
負債の部	247,368
流動負債	103,497
固定負債	143,871
純資産の部	3,082,444
基本金	105,605
国庫補助金等特別積立金	446,286
その他の積立金	1,457,770
次期繰越活動増減差額	1,072,783
(うち当期活動増減差額)	△10,044
負債及び純資産の合計	3,329,812

好評授産製品

キリスト教会用品と木製玩具、積木各種

■ご利用ください。お待ちしております■

当会の関係福祉施設のユニークな製作品に、木工製品があります。これらの製品は、仙台市にある日本キリスト教団東北教区センター「エマオ」でも、常設展示されています。

木工製品は、キリスト教会用家具、用品、高品質の各種積木、木製玩具その他木馬、幼児用机・椅子、福祉施設用家具などが中心です。最近はクリスマス用品、縫製製品も多く製作しています。

当会のホーム・ページもご参照くださって、ぜひご用命、ご利用ください。



写真 上 幼児用テーブルと椅子。写真 下 日本基督教団東北教区「エマオ」内 製品常設展示場。



白河めぐみ学園
Tel 0248-25-2046

白河こひつじ学園
Tel 0248-25-2055

あだたら育成園
Tel 0243-48-3111

須賀川共労育成園
Tel 0248-76-4155

あだち共労育成園
Tel 0243-48-3113

はなわ育成園
Tel 0247-43-3891

山形ひかり学園
Tel 023-672-2377

寒河江共労育成園
Tel 0237-86-7625

山形育成園
Tel 023-673-2575

児童発達支援センターまきびと
Tel 0248-25-0869

泉崎村障がい者支援センター
Tel 0248-53-3618

発達支援センターあだたら
Tel 0243-22-2800

相談支援センターこひつじ
Tel 0248-21-8648

児童発達支援センターはなわ
Tel 0247-57-9601

木工製品のご相談は 須賀川共労育成園 電話 0248-76-4155 あだち共労育成園 電話 0243-48-3113 寒河江共労育成園 電話 0237-86-7625